
真・恋姫†無双 紅蓮の炎を操る者

翠緑の天帝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・恋姫†無双 紅蓮の炎を操る者

【Zコード】

Z9572Z

【作者名】

翠緑の天帝

【あらすじ】

馬超達とほのぼのと過ごしていく何気ない作品です。

他には、关羽や陸遜などを出して行きます。原作は、ほとんど無視していく方向なので心の広い片は、生温かい目で見守ってください。

この、作品は処女作です。

オリキャラも出します。

1話（前書き）

つい、衝動で書きたくなってしまった。

悠希「おい（。 。 ）へ、大丈夫なのか？」

翠緑「やつてやるわ。中学生だかどー！」

悠希「なら、ファイトーー！」

翠緑「ああ、ありがとづ。後書きでは、座談会をやります」

悠希「それでは、翠緑の天帝の処女作をビリビリぞー！」

「こゝが、あこつらが居る所か……」

俺は、性が馬。名は神。字が双騎。真名は悠希。

「さつと行くかな。翠が五月蠅いだろうし・・・・・

「すいませーん。誰か、いますかー？」

「はい。どなた……つて悠希ー?」

「よつ。久しづりだな、翠」

ガバッ！さう効果音が付く勢いで抱きついてきた。

「今まで、何処にいたんだよ！？心配してたんだぞ！…」

「こつは、翠。まあ、馬超って言った方が早いかな？」

「色々、回っていた」

「まあ。早く、皆と顔合わせをしないとな」

「ああ。行こつか」

あたしは、馬騰。馬超の母親で馬岱の叔母にあたる。今、誰か来たみたいだから翠に行かせて居るんだが、帰ってくるのが遅いねえ。と、思つたら走つて來たよ。いつも、走るなと言つているのにねえ。

紫苑にでも頼んで後で、弓の練習でもさせらるかな？

「母様…！」

「なんだい？ 静かにじっとこども書つていいんだうーー。」

「お姉さま、五月蠅い」

「そんな」とよつ、悠希が帰ってきたんだー。」

「え？ 悠希くんが？」

「お兄さま。帰つてきたのーー？」

「あー！ 入つて来てくれよ」

「お久しごりです。馬騰さん。蒲公英」

「3年振りかい？」

「お帰りーお兄さまーー。」

「ただいま。蒲公英。馬騰さん、3年ではなく5年です

「嫌だねえ。真名で良こよ」

「了解です。琥珀さん」

「後で、紫苑がくるからね」

「え？ 黄忠師匠が？」

「あー」

「逃げて良いですか？」

「何でだい？」

「いつも、襲われそうになるんですよー。」

「まあ、頑張りなさい。もう、伝えてあるから

「嫌だあああああああああーーー。」

西涼の街に一つの声が木靈した。

続
く

1話（後書き）

翠緑「如何でしたか？」

悠希「短いな、地の文も少ないし……」

翠緑「すいません。地の文を書くのが苦手なので、克服をしていつもと思つます。そして、ゲストの馬超さんです。どうぞー。」

翠「はじめまして、だよな？馬超」と翠だ。皆、よろしくな

悠希「よつ、翠。待つてたぞ」

翠緑「はじめまして」

翠「よろしくな。そして、作者の名前ってなんであたしの真名と同じ字が付いてんだ？」

悠希「やうこえはうだよな。どうしてだ？」

翠緑「それは、恋姫+無双の中で馬超が好きって言うのとティルズオブグレイセスでパスカルと言ひキャラクターが好きで、その秘奥義の1つに翠緑の天帝があるからそこからとったんです」

悠希「よかつたな。翠が好きだつてよ」

翠「ありがとつ／＼／＼

翠緑「そして、今日パスカルの最強武器を作るための素材がゲット出来たのでその記念に作ってみました」

悠希「よく、思いついたな」

翠緑「前に、タイトルが違うもので書いていて友達に渡されてしまつたのでショックで1ヶ月程、部屋を真っ暗にして紙をずっとちぎっていたのは良くな思い出になりました」

翠「ヤンデレかよ」

悠希「ただ、病んでただけじゃないのか?」

翠緑「はい。なので、ネタバレですがこれから出してもいい闘羽さんと馬超さんはヤンデレにしてよいと思います」

翠「何で…?」

翠緑「いや、それの方が作品的に面白いつな気がしたので」

悠希「やうやく終わつにしそう。長すぎだかい」

翠緑「そうですね。今回、長いですが次からもひとつ短くしますので、これからもよろしくお願いしますー(・_・)ー」

悠・翠「次回も、よろしくお願ひします」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9572z/>

真・恋姫†無双 紅蓮の炎を操る者

2011年12月29日22時50分発行